

地球も人の身体も多くは水分によって構成され保たれており、人は水が無ければ生きてはられません。私達日本人は食糧は自給できないけれど、水だけは豊富にあると思っておりますが、その水の奪い合いがすでに始まっているのです。

地球上の水はおよそ14億立方キロメートルと言われておりますが、その大部分は97.47%の海水であり、淡水はわずか2.53%であります。厳密には淡水の中1.76%は氷河凍土であり、地下水0.76%ですから人間が身近に使える水は

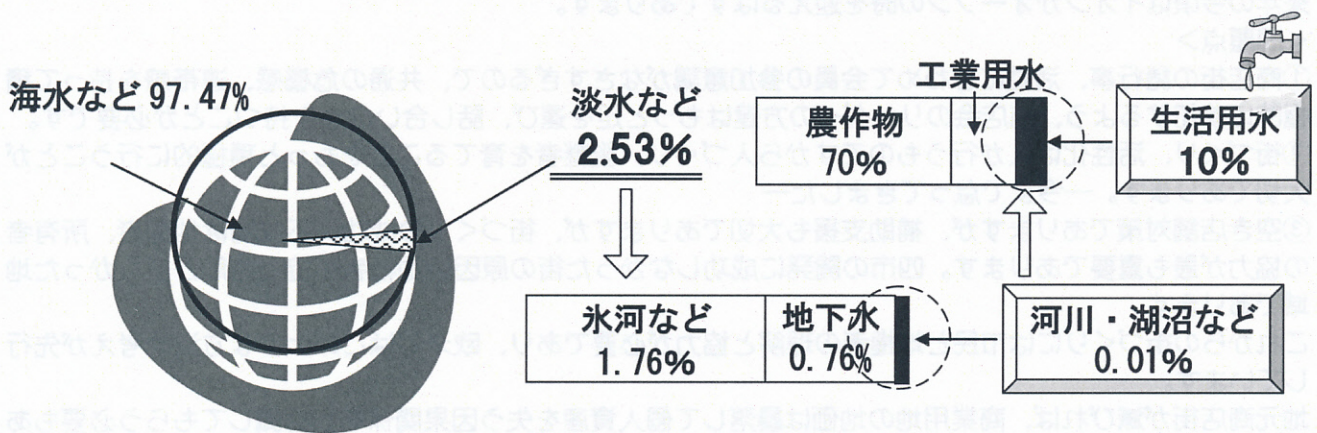
河川湖沼とダムのわずか0.01%しかないのです。

しかもこの0.01%の70%は農作物に使われ、残りの20%が工業用水に使われ、生活用水に使われる水は10%となります。

世界は今、水不足で困っております。

昨年中国を旅行した時、中国人ガイドが「このままですと中国は北京まで砂漠となってしまいます」と説明していましたが、飲む水に困っているのではなく「食糧」を作る水が不足しているのです。

そのために中国は広大な土地を持ちながら食糧の自給生産が出来なくなってしまったのです。



中国では経済発展による工業用水と食糧生産の農業用水の不足は深刻であり、水の多様は必然的に河川の汚染と密接な因果関係、悪循環が起きております。

日本の食糧の自給率をあげるために休耕田等再活用する時・・・現在の日本の自給率40%の農業に使われている灌漑用水は年590億トンであります。

更に日本が輸入している食糧を国内で生産するのにどのくらいの仮想水を必要とするか。東大生産技術研究所の算出によれば、作物1kg当たり米は3,300リットル、小麦は2,000リットル、鶏肉は4,500リットル、豚は5,900リットル、牛肉は21,400リットル等の水を必要としますのでこれに輸入量を掛けると640億キロリットルの仮想水が必要とします。

日本は食料という名の水を年間640億キロリットル輸入していることであります。

君津市も一見、自噴水(凡そ1000本)もあって極めて豊富なように見えますが、千葉県自体が水は足らないで房州まで利根川用水が送られてきております。30年前まで、日本では「オカネ」を出して水を買うことは考えられませんでした。今でも自噴している水はほとんど無料で、多くは持ち主に断りも無く当たり前のように取水して大量に持ち去っていきます。そろそろ農業用水の水利権がある様に、自噴する水利権を明確に保全する時かなと思っております。

今、日本人のミネラルウォーターの消費量は14リットル、欧米の10分の1です。今後需要はまちがえなく拡大して行きます。すでに、メーカーが良質な水が湧き出る水源を巧妙なやり口で、買い漁り、豊かな水の生態系を悪化させて地元住民らとの争いが起き始めております。

エネルギー、食糧、水は21世紀の人間が生きていく上での三種の神器であります。